

# 地方連盟理事長・組織担当者会議 報告

組織部長 浜田光国

日程:2019年6月29日(土)午後1時から5時間~30日(日)午後0時まで4時間

会場:全国連盟事務所

出席:30 地方連盟(37名)+全国連盟役員 14名

<29日の内容>

## ★全国連盟理事長挨拶 浦添嘉徳 13:00~13:30

全国労山の現状と課題、そして今日、登山の多様性に対応するため、全国労山の歴史から学ぶことが大事であると考えている。これから取り組むべき方向性について話があった。

- ・「全登研」の集会在労山運動の発展と組織拡大に大きな牽引力をはたした。「労山遭対基金」の発足によって、加盟団体が急速に増加し、今日の組織の基礎をつくりあげた。
- ・保険業法の改正・改悪により「遭対基金」運営の危機に直面し、他の団体との共同行動に立ち上がりました。その結果、会員の自主的な寄付金によるものとして継続する。
- ・「労山自然保護憲章」の制定、「ROUZANパートナーズ」の発足・閉鎖の取り組みがあった。これから労山組織を発展させていくには、優れた制度・経験に学んで、今日の多様な登山要求に応えていくことが求められている。
- ・現在、全国労山が取り組んでいる諸問題で、①理事を全国から選出 ②「全国登山究集会は2~3年に1回開催 ③安全登山をめざす標準づくり ④山筋ゴーゴ一体操を全会員に普及 ⑤「労山基金」の改善(ココヘリとタイアップした労山専用プランの交付) ⑥創立60周年記念事業に取り組む ⑦「労山ニュース」の継続発行を決定 粘り強く取り組んでいくことが大事です。「次世代に労山を引き継ぎ、60周年を迎えよう！」



## ★基調提起 全国連盟組織部長 大澤辰雄 13:30~14:15

労山の会員数は2018年11月末で598団体、18,802名となり、前年に比べ5団体227名の会員減となった。組織強化の現状と課題、仲間を迎える打開策を全国の仲間とともに共有し、組織を改善発展させる場として、本日の会議を開催することになった。

本会議では、仲間を増やし組織強化に向けた方針提起と地方連盟・各クラブの組織運営や仲間を増やす活動の実践を交流し、各地方連盟での会員拡大活動の取り組みの参考とし、仲間を増やし、労山組織強化を大きく進める場とする。

### 1. 組織の現状と課題

#### (1) 全国の会クラブ組織と組織運営の現状

2018年11月末登録で、49 地方連盟のうち増加又は減らさなかったのは20 地方連盟(10名以上増加は6)、減少50名以上2、20名以上4、10名以上8、10名以下が15で合計301名の減となっている。会員が増加している地方連盟・会クラブでは、市民に開かれた講座を実施、ホームページの充実、新入会員教育など、安全で楽しい山行を積み重ねることによって会員を増加させている。

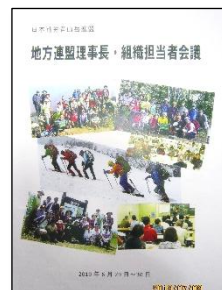
組織を維持し発展させるためには、会員数の維持を追求し、会員拡大と会・クラブへの強化が必要である。労山の登山活動・文化を継承するためには青年層を獲得する必要に迫られている。労山活動の意識の希薄化が問われている声があるが、この改善には労山の「趣意書」「規約」などの学習や、これまでの活動に学び、今後どのような活動をしていくのかが問われている。

## (2)各地での仲間を増やした、組織強化への取り組み

京都府連では府連盟 1,000 名を目標に立て、登山教室、公開ハイク、府連青年委員会での若者交流、新入会員教育など、各会クラブ・府連盟の総力による奮闘で、2017 年 1,002 名、2018 年 17 名増とし、この 10 年で 107 名増やしている。また、北海道道央地区連盟では 100 名増を目指し、ここ 3 年で二けた以上の会員を拡大した。連盟組織部が主管する市民登山教室は今年 40 回目を迎え、その教室卒業生で結成された 3 つの会などが中心となって、この 10 年で 86 名を増やしている。他に、兵庫県連盟、大阪府連盟、香川県連、愛知県連の紹介や岡山・倉敷ハイキングクラブ、神戸中央山の会等の入会者を増やしている会や「ヤマレコ」を利用している会の紹介があった。メディアの活用が重要であるが、更新頻度や内容の充実が重要となっていて、その活用にも独創性を持たせることが必要不可欠となってきた。先進的な活動に学び、自分たちの地方連盟や会にあった方針で取り組むことが重要である。

## 2. 地方連盟・各会クラブの組織強化をめざし、山を楽しめる仲間を増やす活動に取り組もう！

地方連盟、会・クラブの組織強化も、労山活動、登山文化を次世代につなぐために、現会員や若者の情熱とエネルギーが発揮できる組織をめざし、会・クラブの次世代を受け継ぐ、山を楽しむ、楽しい労山組織をつくりあげなければならない。そのために次の課題に、全国の仲間が一丸となって取り組み、労山の活力を復活させ、当面組織会員は、最高時の 2 万 4 千名まで回復させることを目標に取り組む。



- (1) 労山理念学習で労山の必要性を理解する活動を全会員に  
会員が趣意書の「権利としての登山」など考え方を学び、労山のあり方、必要性を理解したうえで、仲間を増やしていくことが求められる。
- (2) すべての登山愛好者を迎え入れる、楽しい会活動をすすめる。
- (3) すべての会が、山を楽しむ会員を増やす目標を持つ  
加盟の会・クラブと協議し、合意の上で連盟の会員拡大の目標を定め、現在の会員数を維持し、それぞれの連盟の最高到達を回復する。
- (4) 地域の登山教室・講座の開催をすすめ会員拡大につなげる！  
地域の登山教室に連盟から支援や講師育成などに取り組む。
- (5) ホームページの開設をすすめ会員拡大につなげる！  
ホームページを見る側に立った管理、運営も含めた内容の向上を推進する。
- (6) 新入会員のフォローアップを徹底、とにかく楽しい会活動をめざす
- (7) 登山時報を機関誌として会員拡大に活用をめざす
- (8) 多様な登山活動の発展を各地で推進する
- (9) 遭難事故防止の活動を教育活動の推進  
仲間を増やす登山教室などの開催には、遭難事故防止・教育活動の推進が重要

## ★各地方連盟組織活動レポート報告 14:15~17:00

・北海道道央地区連盟では、連盟及び各会で市民登山教室を 40 年取り組んでいる。会の活動の紹介で、さっぽろ山遊会では市民登山教室は新聞に掲載するが高齢者が多いので高齢者をターゲットにしてシステムを確立した。BMC の会はポスター等に若者の笑顔を掲載し山岳会の敷居を低くすることに努めた。親しさを増すためニックネームで呼ぶようにした。優しく対応して名前をサインした名刺を手渡した。平日に休みの

方が多く平日山行を企画している。

- ・**京都府連盟**では公開山行をシリーズ化し一般の継続参加を促す。減らさない取り組みとして多様なニーズに応えられるように、里山歩き、趣味サークルの活動で活躍する場、定例的に集える場を設け、継続的な会員間の交流をはかった。
- ・**福岡県連盟**では、組織的な活動に見向きもしない会員が増え、どこに課題があるのか難しい運営になっている。ヤママップなど SNS の会員数は飛躍的に増えており、これまでの概念を 180 度返すくらいの会員拡大の意味を考えなおさなければいけない時期かと。
- ・**愛知県連盟**では、一般向け登山者講座を 2010 年度から開催し合計 39 名が各会へ入会している。新しい会の設立を視野に入れた活動も必要だと考えている。
- ・**香川県連盟**では、登山学校や讃岐山脈ロングトレイルのイベントからの入会機会を作っている。高齢化が進んでいることから、ヤングメンバーを集めて交流登山を実施。
- ・**兵庫県連盟**では、地域別の交流活動をしている。ただ、地域性が薄れている。そのため、地域ネットフォーラムをしている会もある。姫路に新しい会を作りたいと考えている。
- ・**大阪府連盟**はセミナーや組織担当者会議、そして 2019 年度の各会への呼び掛けを報告。

### ★全体討論 特徴的な一部の質問・意見を記載 17:15～18:00

Q. 全国連盟 HP の各会紹介記事や各会のホームページが更新されていない？(岡山)

A. 各県連で各会に呼びかけて確認してもらい、加盟団体(クラブ)紹介ページ入力フォームに修正文を記載や HP の変更を連絡して下さい。(大阪でも各会へ呼びかける)

Q. 何で会員拡大を何故するのか？ 誰のためにするのか？各会で温度差があり論議する必要がある。

A. 趣意書にある遭難事故者減らす(なくす)ために実施している。生徒のため・・・など。趣意書については今後全国連盟で内容の見直しを検討する話し合いの場を持つ。

A. 宮城労山から、会員拡大はテクニックではなく、顔の見える運営、声かけが大事。また、楽しいイベントを取り組むこと。(宮城マラソンを取り組む)

Q. 各会の運営や活動内容のチェックは？

A. 各会を訪問している。脱退する会の会員で残りたい人がいれば他の会に残ってもらう。

#### <意見>

・高齢化により自家用車が使いづらい、またマイクロも白タクの件で使えなくなっている。

・役員のみ手がない。(鹿児島、島根)

・若い人がやめる。10人中9人。昔は山登りだけであったが、今はいろいろ他にもある。労山に入るのがわかりづらい。ココヘリはアピールできるが、ハイカー層にはメリットが少ない。(長野)

・労山活動は地道な活動の積み重ねしかない。(和歌山)

・四国ブロックで講習会を取り組んでいる。また、四国分水嶺山行を取り組んでいるが、その時に飛行機の残骸を発見した。(愛媛)

#### <会議に出席して>

大澤組織部長の基調提起や各会の報告を受け、大阪連盟の組織拡大に活かせたいと思いました。大阪府連盟として各会や未組織の登山者の立場にたって考え、各会との関係を強めることや組織の基本にたって会員のための楽しい山行・運営を取り組むこと

が会員拡大に繋がるとことを伝えたいと思いました。また、労山の理念に基づき未組織登山者の組織化や教育(遭難を防ぐ活動)を大阪府連盟全体(各会と一緒に)の取り組みにする必要があると思いました。

**『各会1名以上の会員拡大を!』 組織部**

---